

連載 私の町はどんな町⑱

—新座市(二)—

新座市で一番の名所は「平林寺」でしょう。平林禅寺による縁起には「当寺院は、天授元年（一三七五年）武州岩槻城主太田道真公（道灌の父）が岩槻に建てた——」とあります

が、道真は一四九二年に八十二才で没しているのです、開山の一三七五年には生まれていません。

当寺は松平家（松平信綱の居所である大河内家）の菩提寺です。従って川越城主となった伊豆守信綱の子輝綱が、平林寺の野火止への移転を一六六三年に実現させました。

一八六七年に平林寺は失火で焼失し明治の初めに復興させ、現在の仏殿・山門・鐘楼等は、県指定の史跡名勝に、昭和四十三年には、境内林が国の天然記念物に指定されました。

平林寺の主人公である松

平信綱は、一五九六年に生まれ、三代將軍家光の誕生と同時にその側小姓となり、二十八才で伊豆守、忍城（行田市）三万石から川越城六万石に移封し、幕府の老中を勧めました。

信綱の政治手腕は頓智に優れ、家光を援け俗に「知恵伊豆」と呼ばれていました。

信綱には多くの逸話が残されていますのでその中から、二つ紹介します。

二の丸へ通づる橋の反り加減が気にいらぬ家光が、橋を造り直すよう信綱に命ずると信綱は咄嗟に腰より扇子を抜き出し、二・三間押し開いて「勾配はこの位に取付けては如何か」と伺ったところ「まだ少し低い」と言われたので又一間開いて見せたところ、それで良いとの家光の言葉にそのままその扇子を役人に渡し改修を命じました。家光はその頓智に感心して五百石の加増をしています。

松平家は扇子を開いて身を立てたために「三つ扇」

の家紋を用いたとの説があります。

信綱が旗本の時、二の丸のお庭にある大石を取り除けとの上意があった時、数百人でも動かせない大石に、役人共が当惑していたのを見て信綱は、庭に大穴を掘りその中に埋めて、その残土を運べば手間取ることはあるまいと下知し、その通りに石を埋めて役人共は安堵したと云います。

この事を聞いて、箱根檜の木坂の巨石が往來の妨げとなっていたので、この方法で処理したと伝えられています。

三代將軍家光は、「悲しまじ、悦びもせじ、遂にはさむる、夢の中」の辞世を残し四十八才でこの世を去りました。

同日、老中の堀田正盛・阿部重次・内田正信等が殉死しました。

家光の信頼の厚かった信綱も、誰もが殉死するものと信じていましたが、第四代家綱が將軍になっても腹

を切らない信綱に、悪口が浴びせられました。

「伊豆まめは、豆腐にしてはよけれども、役に立たぬはきらずなりけり」等の落首が書かれました。

しかし自分が死んだら十才の若君を誰が援けるのか、生き永らえ若君を援けることこそ補佐役の仕事であり、真の忠義というものだ。と唱え、

信綱は、この殉死の不合理を廃止する決意をしましたが果たせず、一六六三年にこの世を去りました。

この精神は、後の老中に引き継がれて、翌年「今後追腹などすることなき様、常々主人より、堅く申し合め置く事、もし殉死があった場合には、御触れの違反として跡目の相続も認めず、不届きに思う者也」の殉死禁止令が布告されました。

それ以後、全国で当然とされていた殉死は全くなくなりました。

（小島 次郎）

マンションの大規模修繕工事、  
“瑕疵”への備えはありますか？

大規模修繕工事の『瑕疵保険』なら…



国土交通大臣指定 住宅瑕疵担保責任保険法人

株式会社 住宅あんしん保証

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-6-6 八重洲センタービル 7F

TEL:03-3516-8008 FAX:03-3516-6332

までお問合せください！

住宅あんしん

検索

